

# 名古屋 文化 情報

2012

12

Dec.

No.345

NAGOYA  
Cultural  
Information



2012  
12  
Dec.

Contents

十二月のうた..... 2  
 随想 竹市 学 能楽笛方藤田流..... 3  
 視点 《こうもり》に寄せて まとめ/小沢優子..... 4  
 この人と... 加野昭二郎さん(下) 聞き手/飯塚恵理人..... 6  
 ピックアップ..... 8  
 おしらせ..... 9



表紙

作品

「(07-28) FOREST - ANIMALS」

(2007年/70×70cm/パネルに印画紙、樹脂、写真にエッチング)

写真に撮ったものをもとに制作していますが、われわれが風景など奥行きのある現実世界を見て「絵のようだ」と思うとき、心の中ではどういふことが起きているのだろうかという疑問が制作のきっかけになっています。

山田 純嗣 (やまだ じゅんじ)

1974年 長野県飯田市生まれ

1999年 愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了

2006年 「VOCA2006」上野の森美術館

2009年 個展 中京大学アートギャラリー

C・スクエア (名古屋)

2010年 平成21年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞

2012年 「ポジション2012」名古屋市美術館

十二月のうた

夜空ノムコウ

クラトミ ヨウコ  
倉富 洋子

ふりがなをうってゆるやかなる佳日

無言電話のむこうに月は出ているか

形而上学的な涙で夜を閉させ

生きめやも口笛ひとつ携えて

発砲のそれから 冬がはじまりぬ

すうつと光る流れ星をみつめて、反射的に願い事を探しながら、ふと考える。

流れ星は10分に1度夜空を駆け抜けるというけれど、10分に1度、1日に144度、願い事の機会を得たとして、そんなにもたくさん願い事が世界に存在するのだろうか。わたしたちの願いは実ほともシンプルで、願い事の機会は1日にただ1度でいいのではないだろうか。

「おやよみ」「おやすみ」

☆

★

☆

明日が愛に満ちた1日でありますように。

## 随想

## 「SNS活用の勧め」—能楽の世界によろこそ—



たけいち まなぶ  
竹市 学（能楽笛方藤田流）

能楽の世界では、役者が主催者を務める場合がほとんどで、私のような囃子方はシテ方などの主催者より出演依頼を受け、舞台を全力で勤めるのを信条としていました。

数年前より自分の勉強の為、他の役者の方々と東京にて【三聲会】、名古屋にて【能の旅人】という志を同じくする集まりの会を立ち上げ、これまでと違う主催者側としても舞台に取り組ませていただきました。そこで、改めて舞台の告知による集客が如何に難しいかを痛感しました。

能楽は、その性格上ほとんどの公演が一回限りで、連続公演や巡回公演はありません。したがって、一回の公演にかかる宣伝費の割合が高くなってしまいます。日本一大きな専用劇場の名古屋能楽堂ですら六百名の収容ですので、広告に対するスポンサーは残念ながら期待できません。

以前は、趣味として嗜まれていた能楽人口も多く、いわゆる「ロコミ」で客席を賑わせていたと聞いています。今では、その「ロコミ効果」も薄れています。

そこに登場したのがfacebookなどのSNSです。プライバシーの問題も指摘されていますが、宣伝のすべを持たない我々のような古典芸能者には強い味方になってくれるのではないかと期待しています。

訪問型のホームページやブログと違い配信型な

ので、公演情報を知りたいと思っている方に確実に告知できます。また、シェア機能を有効に使うことにより無限大に広がります。

ホームページの場合ですと初期投資が掛かりますし、制作者や投資額により出来上がりが変わりますが、SNSは既存のテンプレートを使いうまくカスタマイズする事により、無料ながら自分なりに作り上げることができます。

海外の劇場などのように、我々が関わる能楽堂のような専用劇場も、役者達と共同してSNSを活用して、番組告知などの普及に取り組めれば、効果的に情報共有ができると思います。手探りでは有りますが、私はfacebookを積極的に活用しています。

次世代に能楽などの古典芸能を如何に残すかという課題もあります。

近年、学校への訪問講座が少しずつ成果を上げつつありますが、一部の学校に留まり普及には時間が掛かりそうです。

小学生の教科書に狂言の台本が復活しましたが、授業に日本の音楽や舞が取り入れられることはありません。日本固有の楽器や音楽が有りながら、知る機会は与えられていないのが現状です。

世界の中に日本が残るよう、文化にも目を向けていただければと思います。

※SNS=英: Social networking service

## 《こうもり》に寄せて

来年の2月22日から24日にかけて行われる名古屋市文化振興事業団恒例の総合舞台芸術の企画公演は、ヨハン・シュトラウスⅡ世のオペレッタ《こうもり》。8月に出演者のオーディションがあり、11月から本格的な稽古も始まっている。オペレッタの名作と言われる《こうもり》。上演に先立って思いつくまま語ってみたい。(まとめ:小沢優子)

### さまざまな音楽劇

演劇、音楽、舞踊の分野で活躍する地元の舞台人の力を結集して催される事業団の企画公演は、今年度の《こうもり》で第29作目。今までにさまざまな音楽劇が上演されてきたが、《フィガロの結婚》《ポーギーとベス》《三文オペラ》を除けば、それらは主に、ヨーロッパのオペレッタ、アメリカのミュージカル、オペレッタやミュージカルの形態によるオリジナル作品の3つの種類に分類されるだろう。

#### ヨーロッパのオペレッタ

《天国と地獄》《こうもり》《メリー・ウイドウ》《伯爵令嬢マリッツァ》《チャルダッシュの女王》

#### アメリカのミュージカル

《回転木馬》《アニーよ銃をとれ》《かるめん・じょーんず》《マイ・フェア・レディ》《サウンド・オブ・ミュージック》《ショウ・ポート》《ビッグ》《オズの魔法使い》《シンデレラ》

#### オリジナル作品

《照手と小栗》《夏の夜の夢》《コンガラ野球団!》  
《トーカー・トーカー》《海の向こうに》

どれも明るく楽しいという点では同じでありながら、成り立ちや性格はそれぞれ異なる。喜劇的な音楽劇は多彩な歴史を持っているのである。



平成23年度 《シンデレラ》



平成22年度 《海の向こうに》

### オペレッタ、ミュージカル

喜劇的な音楽劇は18世紀のオペラ・ブッフアやイギリスのバラッド・オペラ、フランスのオペラ・コミック、ドイツのジングシュピールに始まるが、本格的な娯楽追求の音楽劇の登場となると、19世紀中頃のフランスのオペレッタということになるだろう。オペレッタは話し言葉による対話と歌と流行の踊りを伴う軽めのオペラで、フランスのオッフェンバックによって独立した舞台芸術として確立された。彼の《天国と地獄（地獄のオルフェ）》はギリシャ神話を徹底的に茶化し、社会を辛辣に風刺したストーリーと底抜けに明るい音楽で一世を風靡し、オペレッタの地位を決定的なものにした。

やがてオッフェンバックのオペレッタがウィーンで上演されるようになって話題を呼び、ウィーンの作曲家もオペレッタを手がけることとなった。《軽騎兵》序曲で知られるスッペ、そしてヨハン・シュトラウスⅡ世である。シュトラウスは宮廷舞踏会の音楽監督を務め、ワルツ王として名声を得ていたにもかかわらず、なぜか1870年代にオペレッタの世界へと転身して次々と作品を生み出している。《こうもり》は彼の3作目のオペレッタにあたり、1874年の初演は大成功。熱狂的な人気を博した。フランスのオペレッタが強烈な風刺を持ち味としているのに対し、ウィーンのオペレッタは優美さが身上で、シュトラウスの頃になると華やかさも求められようになっていた。シュトラウスは得意としているワルツやポルカをオペレッタにも生かし、華麗で魅惑的な舞台をウィーンの人々に提供したのだった。



平成21年度 《チャルダッシュの女王》 《チャルダッシュの女王》《伯爵令嬢マリッツァ》などがその興隆を示している。

同じ頃、オペレッタはアメリカでも受け入れられ、アメリカ独自の芸能である minstrel や vaudeville にオペレッタの形式やスタイルが結び付き、ミュージカルが誕生した。



平成19年度《オズの魔法使い》

1927年の《ショウポート》はミュージカル確立のきっかけとなった作品である。その後、《オズの魔法使い》《オクラホマ!》《カルメン・ジョーンズ》《回転木馬》《ア

ニーよ銃をとれ》《王様と私》《マイ・フェア・レディ》《ウェスト・サイド物語》《サウンド・オブ・ミュージック》などの作品が続き、映画化もされて高いポピュラリティを誇っている。このあたりのミュージカルを事業団の公演でご覧になった方も多いのではないだろうか。

## ファルケとアイゼンシュタイン

ウィーンのオペレッタを代表する《こうもり》の物語は、富豪のアイゼンシュタインに以前泥酔させられ、ひどい目にあったファルケ博士の企みを軸にくり広げられる。

ファルケはアイゼンシュタインをオルロフスキー公爵の舞踏会に招き、公衆の前で笑い者にしようとして計画する。舞踏会にはハンガリーの貴婦人に扮したアイゼンシュタインの妻のロザリンデ、フランスの侯爵になりすましたアイゼンシュタインが出席し、皆が互いに名前や身分を偽ったまま歌や踊りに興じる。翌朝、舞踏会で口説いた貴婦人が妻のロザリンデだったこと、すべてが自分をからかうための悪ふざけだったことを知るアイゼンシュタイン。「つまりシャンパンが悪かったんだ」。ファルケの仕返し劇はシャンパンをたたえながら幕を閉じる。

心浮き立つ序曲、「酒の歌」、チャルダッシュ「故郷の調べ」、クープレ「田舎娘を演じる時は」など、《こうもり》には有名なナンバーがいくつもあり、人を酔わせる魅力的な音楽が3幕から成る全体を彩っている。当時のウィーンは株価の暴落で経済状況が悪化し、暗く重苦しい世相にあった。そんな中、ウィーンの人々は華やかで楽しい《こうもり》に足を運んで辛いことをしばし忘れ、気持ちに活力を取り戻していたのかもしれない。

## 16年前の《こうもり》

事業団の企画公演が《こうもり》を取り上げるのはこれが2回目。1回目は平成7年度の事業として、平成8(1996)年2月10日から17日にかけて名古屋市芸術創造センターで上演された。この頃は公演回数が多かったのでダブルキャストが生まれ、アイゼンシュタインに井原義則と澤脇達晴、ロザリンデに飯田みち代と荻野砂和子、アデーレに加藤三貴子と長屋恵といった顔ぶれである。

どのような舞台だったのだろうか。音楽雑誌の評を見よう。『音楽現代』(1996年4月号)の水野みか子氏の

評では、「特に声楽家たちのレベルが高かった」、A組キャストの井原、飯田、加藤らの面々が「愉快で明るいだけでなく音楽的にも内容の濃い舞台作りに一役かった」と歌の水準の高さが述べられている。『音楽の友』(1996年4月号)の西崎専一氏の評も、演出の問題点を少し指摘しながらも、井原と澤脇、飯田と荻野、加藤と長屋が音楽的な課題とキャラクター表現を消化し、とくにアデーレの二人はオペレッタらしいコミカルな表情を聴かせている、と歌手の好演を評価している。《こうもり》は音楽劇の中でもクラシック系のものであるため、まずは歌唱力が基盤。その肝心なところは満たされていたようである。

## 最近の公演

昭和59年度の《三文オペラ》以来、毎年続けられてきた総合舞台芸術の企画公演。その歩みは本誌2011年12月号と2012年1月号の「座談会」で記されているので、ご覧になっていない方はぜひ読んでいただきたい。

私は30年近くに及ぶ上演のすべてを観てきたわけではないのだが、ここ数年、音楽と踊りと演技のバランスが良くなり、音楽劇としての充実度が上がってきたのではないかと感じている。たとえば、平成19年度の《オズの魔法使い》ではいろいろな要素が一つになって求心力のあるミュージカルが出来上がり、平成21年度の《チャルダッシュの女王》では、主役級の歌手たちの安定した歌唱と巧みなオーケストラが物語に精彩を与えていた。また、平成22年度の《海の向こうに》は若さあふれる踊りや演技とスピード感のある展開が新鮮だったし、昨年の《シンデレラ》は、ネズミの人形をうまく使うなどの機知に富んだ演出がファンタスティックな世界を造り出してとても面白かった(《シンデレラ》については、本誌2012年4月号の「視点」で詳しく取り上げられている)。



平成7年度《こうもり》

今年度の《こうもり》は、アイゼンシュタインに16年前と同じく井原義則、ロザリンデに日比野景、アデーレに加藤恵利子。加藤は昨年の《シンデレラ》で

王妃役として出演していたのが記憶に新しい。オーケストラはセントラル愛知交響楽団、音楽監督・指揮・編曲にオペラやミュージカルなどで活躍の井村誠貴、台本・訳詞・演出は3年前の《チャルダッシュの女王》も手がけた伊藤明子。新たな演出、台本、歌手によって味付けされた《こうもり》を楽しみにしたい。

## この人と...



『能楽の友』主宰

かのしょうじろう

## 加野 昭二郎さん 下

先月号では名古屋薪能創設と「能楽の友」発刊までの経緯について伺った。今号では「能楽の友」発刊から、名古屋能楽堂建設運動を経て現在に至るまでの、名古屋能楽界と加野氏の歩みを伺った。（聞き手：飯塚恵理人）

## 名古屋薪能の継続と市民への能楽の普及

加野氏は能楽と古典邦楽との愛好者の重なりに注目し、一般県民へより多くの種類の古典邦楽を普及させるために、田鍋惣一郎師（幸清流小鼓方）らの唱導で、昭和43年10月23日、能楽と雅楽・平曲・三曲・尺八・地唄を共に能楽堂で演ずる「明治百年記念・古典邦楽鑑賞会」を企画・実行した。これは能楽堂における古典邦楽と能楽との交流のモデルとなる画期的な催しだった。この催しは二部構成であったが、43年9月10日付「能楽の友」第21号に載るプログラムから第二部を挙げると、藤井制心氏による講演、舞楽左舞「蘭陵王」右舞「納曽利」、平曲「那須与市」、三曲「虫の音」、尺八本曲「鹿の遠音」、地唄舞「ともしび」、休憩を挟み舞囃子「養老」、舞囃子「紅葉狩」、仕舞「玉葛」、脇仕舞「蟻通」、仕舞「高砂」、舞囃子「船弁慶」、狂言「素袍落」、半能「石橋」である。この催しは、「能楽の友」社が雅楽など他の伝統芸能の愛好者にも広く能楽の魅力を伝えた意味でも意義が大きかった。

考え、昭和50年に愛知県国際親善通訳制度の親善通訳（ロシア語）の認定を受けた。

名古屋の能楽愛好者の関心は、単に能や狂言を稽古したり鑑賞するだけでなく、尾張藩の能の歴史、作品内容の解説、小書などの演出の詳細、催しの能評など多岐に広がっていった。これらに対応するべく「能楽の友」の紙面では竹尾邦太郎氏（能楽評論家）、前田満穂氏（朝日記者）、野村広二氏（NHK記者）、殿島蒼人氏（劇評家）、西村弘敬師（高安流ワキ方）、二井栄逸師（喜多流シテ方・能画家）、先代野村又三郎師（和泉流狂言方）、佐藤友彦師（和泉流狂言方）などの寄稿を多く掲載した。また11回目を迎えた名古屋薪能のパンフレットが昭和51年8月に編集・発行されたが、この頃には「能楽の友」社同人の能楽師諸氏の広報活動により、名古屋薪能は夏の名古屋の風物詩として市民に広く認知されていた。

## 「謡曲名所めぐり」について



名所めぐりツアー「四天王寺」

加野氏は、謡曲に所縁のある史蹟に関心を持つ能楽愛好者が増えていること、また歴史や古典文学への関心から謡曲ファンになる人が多いことに注目し「能楽

の友」社主催の「謡曲名所めぐり」バスツアーを企画した。第一回は昭和44年10月10日に54名の参加者を得て行われた。44年11月10日付「能楽の友」第35号にこの時のツアーの記事が載っているので、その時の見学地（車窓か



名古屋薪能のパンフレット

## 昭和50年代・60年代

昭和50年代・60年代は、主婦層を中心に能楽が広まり、中日新聞・朝日新聞・NHKなどの新聞社・テレビ局主催のカルチャーセンターでの仕舞教室やその発表会なども多くなった。また能楽の海外公演が増え、外国人が能・狂言の会に訪れることも多くなった。このような時期に加野氏は名古屋を訪れる外国人への能の普及を

ら見たものも含む)を挙げると「井筒」の遺跡・興福寺・東大寺・春日大社・猿沢池・若草山・東大寺転書門・奈良坂・佐保川・一休寺・宇治平等院・小野・逢坂山である。さらに同人である能楽師が随行し、見学の合間には皆で所縁の謡曲を謡った。同記事にはこのツアーを実施した後、編集部へ届いた意見や感想、今後の予定プランなども載っており、編集部がこの企画をととても大切に考えていたことが伺える。この名所めぐりツアーは昭和の終わり頃まで長く続き、多くの謡曲ファンと歴史・文学ファンを楽しませた。

## 「名古屋能楽堂」建設運動と開館



平成になり一般市民への能・狂言を始めとする伝統芸能の普及はますますその重要性を増してきた。そのなかで名古屋市に公共の能楽堂をという動きが出てきた。平成2年2月10日付の「能楽の友」第278号には「名城に能楽堂建設構想 西尾名古屋市長が表明」として「西尾武喜名古屋市長は、年頭記者会見で、『名古屋城近くに能楽堂建設を検討課題として調査したい』との考えを表明、名古屋城に新しい魅力をアップしようという意向を語っている(後略)」との記事が載る。地方公共団体が能楽堂を持つ場合、開館後に必ずそれが使用されることをあらかじめ確認しなければならないが、この能楽堂の場合はすでに同記事で「能楽協会名古屋支部(西村欽也支部長)では、能楽堂の建設構想は名古屋における伝統芸能の発展に大きく貢献できるとして、陳情書を市長に提出するとともに、全員一致して世論を盛り上げていく方針である」とあり能楽協会を始めとする団体が利用することが伺える。平成2年12月10日号の「能楽の友」第288号には「名古屋城に能楽堂を!」と建設要望の署名キャンペーンの展開を積極的に呼びかけ、また3種類のキャンペーン・スタンプを作成して葉書・封筒・番組などに活用し、多目的なPRに使われた。この署名キャンペーンには複数の流儀の在名能楽師が参加しただけでなく、日本舞踊・三曲・箏曲などの多くの関係者が協力したが、「能楽の友」による能楽愛好者全体への広報の効果は特筆すべき大きな貢献だった。

こうした運動の結果、名古屋能楽堂が名古屋城の南西の地に平成6年秋に着工、9年2月に竣工した。9年4月10日付の「能楽の友」第364号の記事「名古屋能楽堂こけら落とし」には、『「名古屋能楽堂」は、(中略)その開館記念式典が四月三日午後二時から行われ、』と、名古屋能楽堂の開館について伝えている。名古屋能楽堂の建設署名運動の進められた時期は、「稽古事」としての能楽が大変盛んな時期で、素人会が非常に多かった。当時存在した熱田神宮能楽殿ではこうした会が土日の予約に殺到し、舞台を借りるのが難しくなっていた。そこで、ある程度広い他の演

じる場所が必要になってきたという実情があった。新たに開館した名古屋能楽堂は、市民の謡曲の稽古・発表、能楽師の公演のみならず伝統芸能全体の普及・発表・鑑賞の拠点にもなっていったという点でも大きな意味があった。

## 老松の鏡板の寄贈運動

名古屋能楽堂の開館時の鏡板(舞台後方の壁板)は、杉本健吉画伯の筆になる小松を多く描いた「若松」の絵柄であった。現存の能楽堂の鏡板は、大きな古木の松を一本だけ描いた「老松」がほとんど「決まり柄」であったため、この鏡板は能楽師・愛好者の間で物議を醸し、能楽堂に「老松」の鏡板を寄贈しようという市民運動が起こった。この寄付金募集についても「能楽の友」は平成10年1月付の第373号に「老松の鏡板 制作すすむ」「募金千二百万円越える 愛好者の暖かい励ましが支え」という記事を発表するなど広報面で大きな働きを果たした。この老松の鏡板は、「能楽の友」第376号(10年4月10日付)に「名古屋能楽堂に『老松鏡板』設置 年余にわたる運動実る」と載って紹介されている。また若松の鏡板は同記事に「なお、“若松”の鏡板は能楽堂の展示室に展示、二種の鏡板は一年交替で舞台に設置される予定である。」と載っている通り、二つの鏡板は毎年年度末に交替し、現在に至っている。

## 名古屋市芸術奨励賞受賞とこれから

以上のように名古屋の能楽界のために様々な活動に携わってきた加野氏は、これら長年の市民への能楽文化の普及の功績が認められ、平成20年に「能楽の友」社として名古屋市芸術奨励賞を受賞された。能楽への地道な貢献がようやく認められたことは喜ばしいことだった。

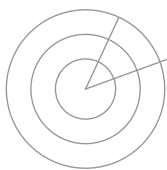
加野氏に、今後の名古屋の能楽界に望むことを伺ったところ、「伝統芸能の能・狂言は、私たちの祖先から受け継いでいる貴重な財産であり、歴史・文化・風土・人情そして自然などすべてのものを凝集したものだと思います。よく例えられることですが、その国の文化は美術館や博物館の数で分かると言われるますが、それぞれの地方においても同じことが言えるのではないのでしょうか。「行かずして名所を知る」「恋せずして女を想う」「友なくして閑居を慰む」など、『謡曲十五徳』の中の言葉が本当に身近に思われます。新しい芸能のパフォーマンスが次々に登場していますが、日本人のあゆみを背景に、能・狂言は今後もさらに深化していくと思っています。」強い信念を持って名古屋の能楽文化の普及に励まれる姿勢を語っている。

## まとめ

加野氏自身は、能楽師や能の催しの広報に専念し、自分は裏方に徹している。現在「能楽の友」を継続するための加野氏の後継者はおらず、加野氏の長年の努力が継承されることなく埋もれてしまう可能性もなきにしもあらずである。

名古屋市の能楽・狂言の広報を担う次世代の継承者の登場を祈りたい。

# ピックアップ



## 中川文化小劇場10周年記念・遠山事務所「左の腕」 「節目を祝う」人情モノの細やかな演出

松本清張の「左の腕」は短編集「無宿人別帳」に収められ、TVドラマや舞台、朗読劇として時代を超えて愛されている作品である。中川文化小劇場の10周年記念として、同作品を選んだ遠山事務所は、もとより時代劇、人情モノを活動の柱に据える、この地域では極めて貴重な存在であり、山本周五郎、菊池寛、井上ひさしらの文学作品を精力的に発表してきた。「劇団も近く20周年です。時代物にこだわってやってきたんだけど、若い役者も含め、最近みんな慣れてきた。これは財産ですね」と話すのは代表の遠山元氏。和服の着こなし、動き、そして時代劇に必然な独特で自然なセリフ回し。安心して観劇できるこの「そつのなさ」こそ、役者が時間をかけて自分に馴染ませていったものであり、この劇団が継続して作品に取り組んできた成果なのだろう。5年ほど前から自身で台本の構成、執筆を手掛けている遠山氏だが「これはウチの役者たちが、少しでも自分らしく舞台上に立てるためのアレンジが一番の目的」との弁。あくまで現場と観客を最優先している劇団の基本姿勢が見えてくる。さらには、伊藤三朗の美術、福田晴彦の照明、音楽、衣装とのアンサンブルも、長年、遠山事務所に携わってきた無形の信頼があって初めて成立しているのだろう。

「もともと中川区という地域は工場が多く、文化や芸術からは遠い場所だった。とにかく一人でも多くの人に劇場に足を向けさせたくて、世話物、人情物を自

然に選択していた」と遠山氏。ご自身の地元でもある中川文化小劇場の誕生時を振り返る。地元住民との対話、触れ合いを重ね「中川文化の会」を立ち上げ、柿落し、1周年、5周年と、節目節目で記念公演を行ってきた遠山事務所。衣装に美術に、とかく金が掛る時代物のスタイルを「歯を食いしばって」続けてきた10年でもある。「地元住民が少なからず持っていた、演劇に対するある種の“敷居の高さ”を取っ払いたかった」と振り返る遠山氏だが、今回、定例利用してきた芸術劇場小ホールでの予定を曲げて、あえて中川文化小劇場で行われた「左の腕」は、確かに中高年の客層が中心ながらも、若者や学生も含めいろんな世代が客席に気楽に集い、温かい拍手に包まれる舞台だった。

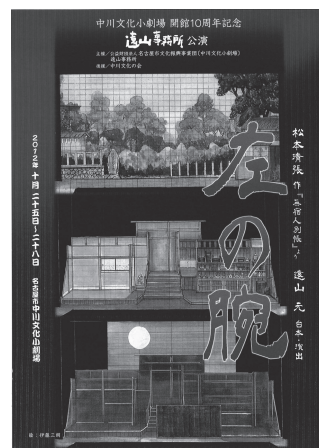
「映画や音楽と違い、芝居は作品がカタチとして残りません。1年かけて必死に作り上げた舞台が、たった1時間でバラされて消えていく。だからこそ僕たちはお客さんの心が相手。そこにくっきり残っていくモノを作り続けたいんです」と静かに語る遠山氏。一つの文化小劇場の10年に寄り添った集団性は、時間を味方にした豊かな成果として、相互に作用しているようにも感じられる。公演当日配布されたパンフレットには、1年後の舞台予告が明記されている。この着実なスタンス、スタイルこそが遠山事務所の継続を支える一番の武器なのかも知れない。今後の活動に、我々も地道に期待していきたい。(H)



代表の遠山元氏



「左の腕」の舞台より



舞台美術デッサン画がそのままデザインされた斬新なチラシ



# おしらせ

名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイドでは各種の事業案内、チケット販売をいたしております。  
平日9:00~17:00 / チケット郵送可 TEL 052-249-9387 / FAX 052-249-9386

Information

## 名古屋市市政資料館×文化小劇場連携企画 文化小劇場で紡ぎ出す名古屋の歴史〈後期〉

前期に引き続き、文化小劇場で名古屋の歴史について学んでみませんか？ 名古屋市域の原初・古代から現代に至る歴史を編み出した「新修名古屋市史」の編集・執筆に携わった歴史の専門家による特別講演会を開催します。

また、後期講演会でも来場者の皆さんを対象にスタンプラリーを実施します。講演会（全6回）+名古屋市市政資料館のスタンプ計7つを集めていただくと、事業団主催のコンサートのチケット等を進呈します。是非ともお近くの文化小劇場へお出かけください。

### 【第1回】住宅施策からみる戦後のまちづくり

日 時	1月9日(水) 14:00
会 場	千種文化小劇場 〈定員251人〉
講 師	松山 明(中部大学准教授)

### 【第2回】名古屋の鉄道の始まりと中川区の鉄道

日 時	1月23日(水) 14:00
会 場	中川文化小劇場 〈定員446人〉
講 師	松永直幸(鉄道史学会会員)

### 【第3回】名古屋港・中川運河の建設と工業地域の形成

日 時	1月31日(木) 14:00
会 場	港文化小劇場 〈定員350人〉
講 師	真野素行(新修名古屋市史資料編専門委員)

### 【第4回】緑区制50周年記念事業 名古屋の俳諧と鳴海宿

日 時	2月7日(木) 14:00
会 場	緑文化小劇場 〈定員446人〉
講 師	服部直子(名古屋外国語大学非常勤講師)

### 【第5回】守山区制50周年記念事業 志段味古墳群と倭王権

日 時	2月13日(水) 14:00
会 場	守山文化小劇場 〈定員400人〉
講 師	深谷 淳(名古屋市教育委員会事務局文化財保護室学芸員)

### 【第6回】名古屋の地形・地質と自然環境

日 時	2月19日(火) 10:00
会 場	天白文化小劇場 〈定員350人〉
講 師	海津正倫(奈良大学教授 名古屋大学名誉教授)

※開場は各講演会開始時刻の30分前です

入 場 料	無料(事前申込不要・当日先着順)
問い合わせ	名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387
主 催	名古屋市市政資料館、公益財団法人名古屋市文化振興事業団[各文化小劇場]

Information

## 2013年(平成25年)第1回 市民半額鑑賞会

中日劇場2月・4月・5月の公演、御園座2月・3月の公演が、通常料金の半額でご覧いただけます。

### ◆申込方法

往復ハガキに下記の内容を必ずご記入のうえ、12月11日(火)《消印有効》までにお送りください。

返信(裏面)

- 希望公演番号(1枚1公演・同一番号の複数申込不可)
- 人数(2人まで) 3. 〒・住所 4. 氏名(ふりがな)
- 電話番号 6. 車イス席希望の有無

返信(表面)

ご自分の住所、氏名(宛先) ※氏名には「様」をお付けください。

### ◆問合せ・申込先

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号  
名古屋市文化振興事業団「半額鑑賞会」係  
TEL 052-249-9387

### ◆主 催

公益財団法人名古屋市文化振興事業団  
社団法人日本演劇興行協会、中日劇場、御園座

### ◆往復ハガキの記入例

往信(表面) 	返信(裏面) 	返信(表面) 	往信(裏面) 
------------	------------	------------	------------

※応募結果につきましては、12月21日(金)以降、返信ハガキにて通知いたします。

### ◆注 意

- チケット料金の他に、取扱手数料(1枚につき300円)、払込手数料およびチケット郵送料が必要です。
- 車イス席をご希望のお客は、必ずその旨をご記入ください。

### ◆公演内容

	演 目	公演番号	日 時	料金・定員	
中日劇場	宝塚雪組公演 ミュージカル・ロマンス「若き日の唄は忘れじ」 グランド・レビュー「Shining Rhythm!!」 【出演】壮一帆、愛加あゆ ほか	①	2月13日(水)16:30	■A席(2階) 7,500円を 3,750円に (各100人)	
		②	2月14日(木)16:30		
		③	2月20日(水)16:30		
		④	2月27日(水)16:30		
	4月	浜木綿子 芸能生活60周年記念公演 「人生はガタゴト列車に乗って…」 【出演】浜木綿子、左とん平 ほか	⑤	4月20日(土)11:00	■A席(2階) 11,000円を 5,500円に (各150人)
			⑥	4月21日(日)11:00	
5月	美川憲一公演 【出演】美川憲一、はるな愛 ほか	⑦	5月 9日(木)16:00	■A席(2階) 11,000円を 5,500円に (各150人)	
		⑧	5月14日(火)16:00		
		⑨	5月16日(木)16:00		
御園座	御園座さよなら公演 松平健特別記念公演 1. 吉宗評判記 暴れん坊将軍 ～初夢 江戸の恵方松～ 2. 唄う絵草紙 【出演】松平健、川中美幸(特別出演)、 江原真二郎、土田早苗、曾我遼家文重 ほか	⑩	2月 7日(木)16:00	■1等席(2階) 14,000円を 7,000円に (各200人)	
		⑪	2月10日(日)11:00		
		⑫	2月16日(土)16:00		
	2月	御園座さよなら公演 川中美幸特別記念公演 1. 赤穂の寒桜 ～大石りくの半生～ 2. 人うた心 【出演】川中美幸、松平健(特別出演)、 江原真二郎、土田早苗、曾我遼家文重 ほか	⑬	2月 4日(月)11:00	■1等席(2階) 14,000円を 7,000円に (各200人)
			⑭	2月17日(日)11:00	
			⑮	2月19日(火)16:00	
	3月	御名残御園座 三月大歌舞伎 二代目 市川猿 翁 四代目 市川猿之助 襲名披露 九代目 市川中 車 【出演】市川猿翁、市川猿之助、市川中車 ほか	⑯	3月 4日(月)11:00	■1等席(2階) 20,000円を 10,000円に (各200人)
			⑰	3月10日(日)16:00	
			⑱	3月20日(水)11:00	
			⑲	3月22日(金)16:00	

# 名古屋市文化振興事業団2013年企画公演 オペレッタ『こうもり』



音楽監督・指揮・編曲・訳詞  
いむら まさき  
井村誠貴

94年大阪音楽大学卒業。在学中よりオペラ指揮者として研鑽を積み、レパートリーも40演目を越えるなどその地位を確立している。管弦楽では京都フィルハーモニー室内合奏団を中心に音楽鑑賞会を全国展開する一方、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、オペラハウス管弦楽団等を客演。また岐阜県交響楽団等のアマチュアオーケストラの分野においても貴重な存在となっている。さらに近年はミュージカルにも活動の場を広げ、「ラ・カーシュ・オ・フォール」を皮切りに、「マイ・フェアレディ」「レ・ミゼラブル」「キャパレー」等のロングラン公演全国ツアーを成功。その活動は指揮だけにとどまらず、演出、編曲、プロデュースと多方面で活躍。指揮を湯浅勇治氏をはじめ、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸各氏に師事。現在、オーケストラMF指揮者。

## 『ウィンナ・オペレッタの魅力』

19世紀半ば、パリで人気となったオペレッタは、次第にウィーンへと移り、19世紀後半、J. シュトラウスII世の「こうもり」の登場により『黄金時代』を迎えます。既に「美しく青きドナウ」や「ウィーンの森の物語」など、ワルツ王としての名声を獲得していたシュトラウスですが、オペレッタの作曲には否定的で、オッフエンバックらの勧めも断っていました。46歳で初めてオペレッタを作曲。2作目となった「こうもり」の完成時は、既に49歳となっていました。その後、「ヴェネツィアの一晩」「ジプシー男爵」などを発表し、オペレッタの作曲家としての地位も確立しました。シュトラウスが後世に与えた影響も大きく、彼に続かんとばかりに、レハール、カールマンといった『白銀時代』へと受け継がれていきます。

「こうもり」の大成功で幕開けしたウィンナ・オペレッタは、これまでにない手法で聴衆を魅了していきました。通常それまでのオペレッタでは、盛り上がり行く音楽の先に華やかなファンファーレや勇ましい音楽が登場しますが、シュトラウスは、音楽が最高潮に達したところで『ワルツ』を挿入！これは当時としては衝撃的な事でした。突然肩すかしされたような感覚ですが、それが「お洒落」に感じるのですから、もう天才としか言い様がありませんね！

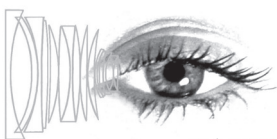
さてさて、指揮者が最初に勉強する作品・・・実はヨーロッパではオペレッタです。『オペレッタが指揮できれば何でも振れる！』とまで言われる程で、指揮者にとってオペレッタは重要なレパートリーでもあるのです。私自身もシュトラウス作曲のオペレッタ「ウィーン気質」でデビューさせて頂きました。

日本では年末恒例となったベートーヴェンの第九交響曲ですが、ヨーロッパ各地では年末となると「こうもり」が上演されるほど定着しています。ワルツ、ポルカやギャロップといった舞曲をふんだんに取り入れ、曲間はレチタティーヴォではなく台詞を用い、より物語を重視したウィンナ・オペレッタは、現代のミュージカルの原点でもあります。

日 時	2月22日(金)18:30、23日(土)11:00・16:00、24日(日)11:00・16:00
会 場	青少年文化センター・アートピアホール
料 金	S席5,000円(1F) A席4,000円(2F) <全指定席>※事業団友の会会員は1割引
主 催	公益財団法人名古屋市文化振興事業団
助 成	芸術文化振興基金
問い合わせ	名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387

### 舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム  
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム 部門  
AV機器販売部門 (家庭用)  
映像企画・制作部門  
放送関連部門  
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る  
生きた情報を発信

TVS 株式会社 東海ビデオシステム  
名古屋市中区上前津二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

株式会社エーアンドブイ  
TEL 464-0846  
名古屋市千種区城木町二丁目98  
TEL 052 (761) 5400  
FAX 052 (761) 0909

# Cast

アイゼンシュタイン



井原義則

ロザリンデ



日比野 景

アデーレ



加藤恵利子

アルフレード



錦木勇樹

ファルケ



堀内紀長

オルロフスキー



加藤 愛

フランク



遠山貴之

イーダ



奥村育子

プリント



市川太一

フロッシュ



岩川 均



◎パーティーの招待客など(コーラス・ダンサー)



A I



石黒崇真



伊藤沙緒里



伊藤美佳子



今尾奈々



上田あい



加藤綾子



川瀬邦成



櫛山かなえ



河野佑美



ござわまりこ



柴田恵造



TAKESHI



田村友香



張 聖香



長嶋未央子



野々山敬之



長谷川元志



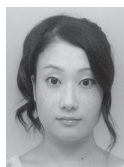
早川とものり



林 雅大



平田了佑



宮本芽衣



森本由美



山下玲皇奈



youu-ji

## 【ストーリー】

役人を侮辱した罪で刑務所に入ることになったアイゼンシュタインは、「こうもり博士」とあだ名されている友人ファルケに『刑務所に行く前の憂さ晴らしをしよう』と誘われ、妻のロザリンデに内緒でオルロフスキー公爵が主催するパーティーへ出掛ける。しかし、それは以前にアイゼンシュタインのいたずらのために恥をかかされたファルケの仕返し計画だった。

アイゼンシュタインはフランスの侯爵といつわり、パーティーに出席する。そこにやってきたハンガリーの貴婦人を口説くものの、実は彼女は仮装したアイゼンシュタインの妻のロザリンデだった。アイゼンシュタインは口説くことに失敗したばかりか大切な時計まで取り上げられてしまうが、それでも妻だと気づかない。

翌朝、刑務所に出頭したアイゼンシュタインは、既に自分が牢に入っていると聞き驚くが…

# Staff

音楽監督・指揮・編曲・訳詞／井村誠貴 上演台本・訳詞・演出／伊藤明子 振付／徳山博士

美術・小道具／石黒 諭 衣裳／木場絵理香 照明／曾我裕幸 音響／内海豊司 メイク／伊藤ヒトミ 舞台監督／遠藤圭介

宣伝美術／安田美香(株)シャコー) 演出助手／磯田有香、堀尾宣彰、大久保 薫 副指揮／小島岳志、柴田 祥 振付補／小川典子

稽古ピアノ／佐藤真由美、杉山真理子、宇野伊世 管弦楽／セントラル愛知交響楽団 制作委員／栗木英章、関山三喜夫、夏目久子

制作／公益財団法人名古屋市文化振興事業団 文化振興部事業推進課

あなたの芸術文化ライフを総合的にサポートします！  
公益財団法人名古屋市文化振興事業団

## 「友の会」会員大募集！

### エンジョイコース (年会費 3,000 円)

- ・事業団主催公演チケットの割引販売！
- ・事業団主催公演指定席チケットの先行販売！
- ・「友の会だより」「なごや文化情報」を毎月お届け！など

### クリエイティブコース (年会費 15,000 円)

- ・会員主催の公演チラシを事業団管理運営施設へ配送！
- ・会員主催の公演チラシを友の会会員へ配布！
- ・会員主催の公演で事業団の後援名義が使用できる！など

名古屋市文化振興事業団 事業案内  
TEL 052-249-9387

## 名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイド

名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8F  
TEL 052-249-9387 / 平日9:00~17:00 ※郵送対応可

## ○事業団主催事業のお問い合わせ

## ○チケット販売

- ・事業団チケット販売システムでのチケットの販売（「チケットぴあ」の取り扱いはありません。）
- ※チケット販売システムで販売のチケットは名古屋市文化振興事業団が管理運営する文化施設窓口でもお求めいただけます。（東山荘を除く）
- ・事業団友の会クリエイティブコース会員様のお預かりチケットの販売。

## ○文化芸術相談窓口

## ○チラシの受付

## 「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人（椋山女学園大学文化情報学部教授）  
小沢 優子（名古屋音楽大学講師）  
倉知 外子（オクダ モダンダンス クラスタ副代表）  
酒井 晶代（愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授）  
田中由紀子（美術批評／ライター）  
はせひろいち（劇作家・演出家）

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

## ファン・デ・ナゴヤ美術展2013

平成10年度より毎年、芸術文化の新たな発信源となるような企画アイデアを公募し、市民ギャラリー矢田にて名古屋から発信する美術展のファンをひとりでも増やすことを目的としてファン・デ・ナゴヤ美術展を開催しています。

今年度は、2人の若手企画者による斬新な美術展を開催します。

**会期** 1月9日(水)～1月20日(日) 9:30～19:00(14日(月・祝)、20日(日)は17:00まで) ※15日(火)は休館

**会場** 市民ギャラリー矢田 **料金** 無料

**内容** <第1展示室>「であ、しゅとるむ」 企画者：筒井宏樹

「であ、しゅとるむ」展は、複数の作家(チーム)が、制作プロセスや制作環境、抱えている文脈や人間関係など、自らの「バックグラウンド」を示しながら、一部屋の空間のなかで一堂に展示することで、相互に関係を結んでいく展覧会です。「美術」という言葉で一括りにされていますが、絵画からネットイラスト、zine(ジン)まで、2000年以降に登場した彼らの表現の多種多様性を示すとともに、参加作家同士がお互いの「バックグラウンド」に参入を試みるといったゲーム性を取り入れていきます。

参加作家：あいちばぶ[池田健太郎、辻恵、文谷有佳里、もぐこん]、伊藤存、泉太郎、ジェイ・チュン&キユウ・タケキ・マエダ、小林耕平×山形育弘×伊藤亜紗、坂本夏子+鋤柄ふくみ、二艘木洋行とお給かき掲示板展、山本悠とzine off、優等生[梅津庸一、大野智史、千葉正也、福永大介]、KOURYOU、qpとべつたの星



<第2展示室～第7展示室>「のこりもの 世界の性質：残るとのことについての研究」 企画者：山崎 剛

学者とアーティストによる研究としての美術展

「のこりもの」と聞いて、みなさんは何を思い描くでしょうか。あたりまえのことなのですが、私たちが生きている世界は、簡単には無くなったりしないけれど、かと言って、すべてがいつまでも有りつづけるわけでもない、そんな残るといふ性質を持っています。言ってしまうと、この世界は、私たち自身も含め、「のこりもの」として存在しています。この、ただ残ってあるというあたりまえの事実に戻ると、あらためて見えるものは何でしょうか。

この展覧会では、こうした性質を持つ世界を研究対象として位置づけ、それを探る研究行為としての美術を試みます。ふつうの美術展では、作品を表現として鑑賞するという何となくの決まりごとがあるかと思いますが、この企画では、まず、何かを知ろうとする営みとしての美術＝研究というちょっと変わったアプローチに触れていただきたいと考えています。

展覧会関連トークイベント「残ることの世界で、生きること」 1月13日(日) 14:00～15:30



写真：山田 亘

**主催** ファン・デ・ナゴヤ美術展2013実行委員会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団

**問い合わせ** 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387

## 伝統文化シネマ鑑賞会1・2・3月

日本の伝統文化を未来に——人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。

本編終了後に、名古屋を舞台に気鋭の監督が撮影したショートフィルム「ショートストーリーなごや」映像化作品を上映いたしますので、あわせてお楽しみください。

**日時・会場・上映作品** 1月16日(水)14:00～ 中村文化小劇場

- ①木工芸 「木の生命よみがえる—北川良造の木工芸—」(34分・1997年完成)
- ②滋賀 「琵琶湖・長浜—曳山まつり—」(32分・1985年完成)

2月13日(水)14:00～ 名東文化小劇場

- ①手の匠 「—日本文化をうみだすもの—」(30分・2005年完成)
- ②木竹工 「竹工芸—飯塚小斎—」(30分・1986年完成)

3月 7日(木)14:00～ 熱田文化小劇場

- ①漆芸 「うつわに託す—大西勲の髹漆—」(35分・2009年完成)
- ②栃木 「若衆たちの心意気—烏山の山あげ祭り—」(34分・1983年完成)

**料金** 無料(当日先着順)

**主催** 公益財団法人名古屋市文化振興事業団／公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団

**問い合わせ** 中村文化小劇場(定員:350人) TEL052-411-4565

名東文化小劇場(定員:356人) TEL052-726-0008

熱田文化小劇場(定員:352人) TEL052-682-0222



滋賀・曳山まつり



手の匠



漆芸・大西勲



## ショートストーリーなごや

第6回コンテスト事業表彰式 & 第5回ショートフィルム完成披露会のお知らせ

名古屋を舞台としたショートフィルムの完成披露会へ無料ご招待!

名古屋を舞台とするショートストーリーのコンテストと、受賞した作品を映像化する事業「ショートストーリーなごや」。第5回の入賞作品を映像化したショートフィルムの上映と監督を交えたトークショーを実施いたします。

**日時** 2月6日(水) 18:30～21:00(予定) **会場** 東文化小劇場

**申込方法** ハガキに郵便番号・住所・氏名をご記入のうえ、1月10日(木)《消印有効》までにお送りください。

**発表** 当選された方には、1月中旬に招待状を発送いたします。

**申込先** 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号  
名古屋市文化振興事業団 「ショートストーリーなごや実行委員会事務局」

**問い合わせ** 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387